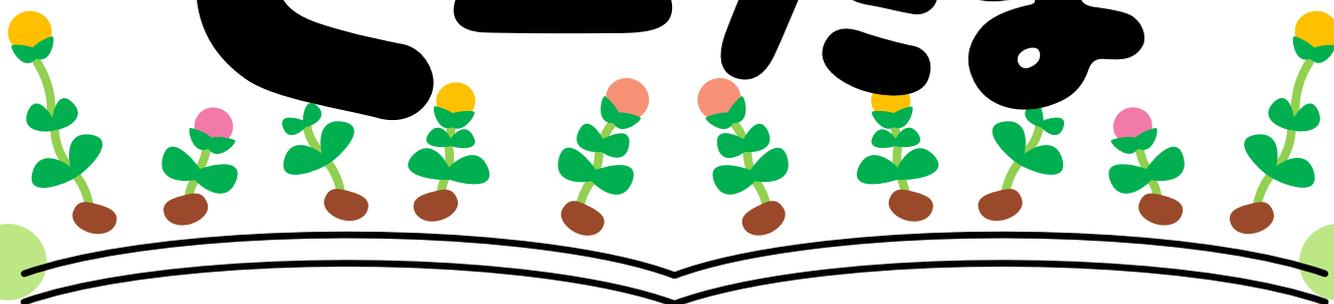


2024年版
小学5・6年生

2024年1月~12月に発行された本の中から
とくにおすすめの本をしょうかいします

ビーだまのようにキラリと光る一さつを

ビーだま



ブックリスト「小学5・6年生」2024年版 No.56

【編集・発行】

富山市立図書館

富山市西町5番1号/TEL 076-461-3200

令和7年4月23日発行(年1回発行)



まほう
魔法のルビーの指輪

イヴォンヌ・マッグローリー／作 加島葵／訳 深山まや／絵 朔北社



11歳の誕生日の直前、ルーシーはおばあちゃんからルビーの指輪をもらいました。指輪の箱には、持ち主の願いを2つかなえてくれると書いてあります。さっそく「大きな家に住みたい」と願うと、なぜか100年前にタイムスリップ！ わけがわからないうちに大きなお屋敷で働くことになってしまい、指輪も取り上げられました。未来へ帰るためには、働きながら指輪を探さなければなりません。

ぼくらナイトバス・ヒーロー

オンジャリ Q.ラウフ／著 久保陽子／訳 静山社



ヘクターは学校一の問題児。ある日、街で話題の連続窃盗犯^{せつとうはん}を目げきします。ヘクターはホームレスのおじいさんに似ていると警察^{けいさつ}に話しますが、それは見まちがいでした。このままでは、わざとウソをついたと思われるてしまいます。無実を証明するために、ヘクターはおじいさんやホームレスの人たちと協力して犯人をおいつめます。



とおおなわ跳びません

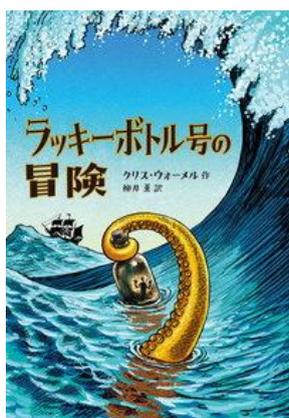
赤羽じゅんこ／作 マコカワイ／絵 静山社

生まれつき足に障がいがある双葉^{ふたば}にとって、学校行事の「おおなわ大会」は大変です。何度かは跳べるし、きれいなわけではないけれど、双葉はクラスが勝つために、大会には出ないと宣言^{せんげん}します。でも、クラスメートの舞花^{まいか}は納得^{なっとく}できません。舞花はクラスメートと知恵^{ちえ}を出し合い、みんながいっしょに楽しめる新しいルールを考えます。



ラッキーボトル号の冒険^{ぼうけん}

クリス・ウォーメル／作 柳井薫／訳 徳間書店



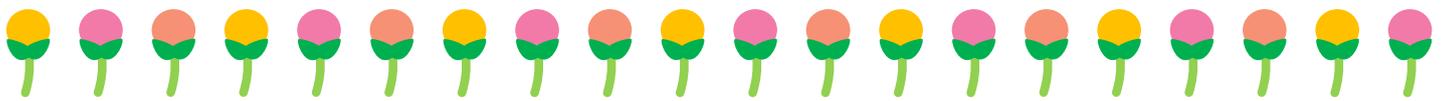
乗っていた船があらしにあい、絶海の孤島^{ことう}に流れ着いてしまったジャック。そこには、19年も前に流れ着いた大男・ロビンソンがいました。二人は島を方法^{さか}を探すうち、島にかくされた海賊^{かいぞく}の宝^{たから}と、ある魔法^{まほう}を発見します。魔法をうまく使えば、海をこえて故郷^{こきょう}へ帰ることができそうです。船の代わりに使うのは、1本の空きビン！？

ともだち

椰月美智子／作 小学館



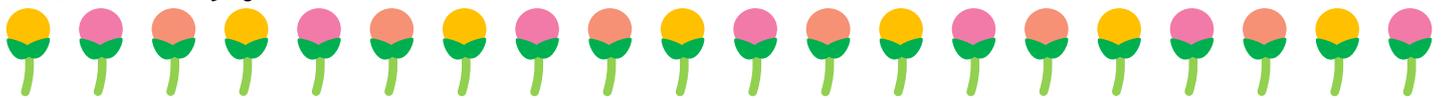
6年生のジュンは、個性豊かな友だちと最後の1年を楽しくすごしていました。ところが、そのうちの一人、シンのお父さんが窃盗犯と疑われ、警察に連れていかれてしまいます。ジュンは無実を証明するために聞きこみを始めますが、少しだけ疑う気持ちもありました。ジュンだけでなく、みんないろいろな気持ちをかくしています。



アインシュタインをすくえ！ 時間と空間をこえた8日間

コーネリア・フランツ／作 若松宣子／訳 スカイエマ／絵 文溪堂

2020年の12歳の誕生日、エミリーはごうか客船の甲板から、1913年の蒸気船にタイムスリップしてしまいました。そこには2016年から来たロレンツォとマリクもいて、同じ3日間を何度もくり返していると言います。3日目に必ず船が火事になり、また3日前にもどってしまうのです。三人は、火事にならないように作戦を立てます。



コメディ・クイーン

イエニー・ヤーゲルフェルト／作 ヘレンハルメ美穂／訳 岩波書店



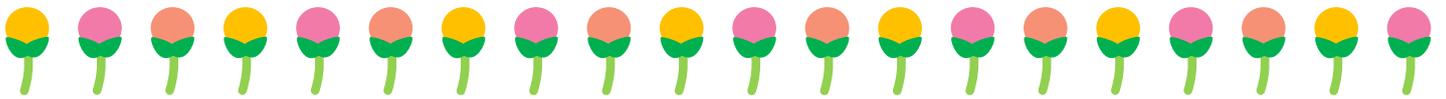
サーシャのママは自殺しました。サーシャはママみたいに死にたくありません。だったら、ママと反対のことをすればいいんじゃない？ 髪はバリカンでかり上げ、散歩も読書もやめました。そして一番大事なこと！ ママは人を泣かせてばかりいたので、サーシャはみんなを笑わせる人、コメディアンを目指します。

マナティーがいた夏

エヴァン・グリフィス／作 多賀谷正子／訳 ほるぷ出版



小学生最後の夏休み、ピーターは、近所の川で、ひどいけがをして死にかけているマナティーを見つけます。ボートとぶつかったにちがいありません。親友のトミーや保護団体の力を借りてなんとか助けますが、1頭だけ助けても意味がありません。ピーターは、すべてのマナティーを助けるために、ある会合でスピーチをします。



命をつないだ路面電車

テア・ランノ／著 関口英子／訳 山下愛純／訳 小学館

第二次世界大戦中、ユダヤ人のエマヌエーレは、お母さんの機転でドイツのナチス軍からにげのびます。しかし、お母さんは連れ去られ、街には兵士がいるので家に帰ることもできません。エマヌエーレは路面電車に乗って身をかくしますが、そこにも兵士がやってきます。



今は91歳さいになったエマヌエーレさんの実話です。



チカクサク

今井恭子／作 いとうあつき／画 くもん出版



英治えいじの弟は、3歳さいの時にベランダから落ちて亡なくなりました。英治の真似をしていて落ちたので、英治は自分のせいだと思っています。

そんなとき、親せきのおじさんが養ほうの旅に連れ出してくれました。家族とはなれ、おじさんや同い年の友だちとすごすうち、英治は少しずつ変わっていきます。